

探訪 新ライフスタイル

NHK大河ドラマ「どうする家康」で話題の愛知県岡崎市。かつての岡崎城跡を中心とした地域創生に全国の市町村から熱い視線が注がれている。国づくりを担った徳川家臣の魂が受け継がれているかのような官民一体のプロジェクトには現代の街づくりのヒントがちりばめられている。

どうする地域創生 愛知・岡崎にヒント



籠田公園と続く中央緑道がリニューアルし、街のリビングルームとなっている

ライフスタイル

1990年代から衰退の00億円を投じる「乙川り4年のこと。18年からは、中央緑道が全面開通した。一途をたどっていた旧中心バーフロント地区整備計画連携まちづくり基本計画」道であり、広場でもある市街地の再生に向け、約1画」を策定したのは201画」(通称：QURUWA 空間)をコンセプトに、テ

「街をリビングに」育んだ官民

戦略)が始動。名鉄東岡崎駅、籠田公園、岡崎公園の総延長3.5kmに魅力的なコンテンツを集積させ、新しい住み方、働き方、遊び方を提案している。

この動線が「Q」の字に見える、かつての岡崎城跡の総曲輪と重なることからQURUWAと名付けられた。19年に籠田公園がリニューアルすると、毎年平均10店舗以上の飲食店やホテルが相次いで周辺に誕生した。21年には公園へと続く

歩行者を楽しませる道づくり、過ごしたいと思える心地よい環境、人と街の融合が実現したのは、行政と主体的に参画した多くの市民、外部ブレンたちの街づくりへの強いエネルギーのたまものだ。

国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口によると、現在は人口増が続く岡崎市でも2030年をピークに下降曲線を描き、急速な少子高齢化は避けられない。将来の岡崎を担う子育て世代のファンベースとなるような未来価値プランも考案中だ。エリア全体を1つの事業体として見立て価値を見つめ直し、社会課題を新しい価値に転換していく岡崎市は地方創生のトップランナーと言えるよう。

「4年前と比較すると公園周辺には5倍程度の人が訪れるようになり、行政関係者の視察件数は一桁台だったのが毎年40件を超えている」と岡崎市都市施設課QURUWA戦略係の中川健太氏は話す。この短期間で東岡崎駅の乗降客数は7%増え、QURUWA上の路線価は2%上昇した。

「街」という社会的資産を生み出しつつある。

「街」という社会的資産を地域社会が力を合わせて創り上げ、既存の街をより良いものに「つくり」変えていくこと。さらに、人や社会にとって価値ある目的を見出し、「カタチ」にしていく「街づくりデザイン」は街に新たな息吹をもたらす取り組みだ。

(商い創造研究所代表 松本大地) 〓おわり